

本町には、除雪ボランティアを行っている琴和町内会、町内会や職域を単位とした総合的除雪態勢もあり、今後これらを見習って、体制の構築をしていきたい。



三島 喜吉 議員 … 4 件の一般質問

TPP協定交渉参加阻止の町・議会・関連団体が一体となった運動を

町長：国民合意のないままのTPP協定に参加しないよう取り組む

三島

① TPP協定交渉の北海道における影響については、農業関連分野で2兆1000億円と試算されており、その中でも地域経済に対する影響が9859億円とされている。2月22日に日米首脳会談が行われ、交渉参加が取りざたされている。

町・議会・関連団体が一体となった運動の強化について町長の決意を伺う。

② 農業が基幹産業として位置付けられている本町として、担い手が夢を持てる独自の予算策定の配慮が必要である。

また、大和原種圃場の地すべり対策の予算について、一歩踏み込んだ農業振興対策としての取り組みが必要である。

町長の農業振興に対する考えを伺う。

町長

① 本町としてこれまで、農業団体等と一体となってTPPに参加しないよう政府に強く求めてきたが、今後も国民合意のないまま関税

撤廃を原則とするTPP協定には参加しないよう取り組みに関わって行く。② 農業を将来にわたり支えていく担い手が安心して農業に取り組める環境づくりのため、農業後継者対策協議会を核として青年活動や学習、講演会の参加及び開催を支援している。

また、本町でも地域農業マスタープランを策定し、農地集積などにさまざまな施策が実施されることから、積極的に取り組んでいきたい。

スポーツ振興施策

三島

① ソフトボール球場「きたろくグラウンド」の今後の改修計画は。

② パークゴルフ場は現在、4コースで開設されている。利用者の増加に向けて1日100円程度の料金値下げを含めた料金体系の改定は。



ソフトボール球場「きたろくグラウンド」

町長

① 現在、日本ソフトボール協会が国際規定改正を保留していることから改正を行ったときには、地元ソフトボール協会関係者と協議して検討していく。② 愛好者から値下げやシーズン券の要望があることは聞いているが、4コースへの増設から1年しか経過していないことから、もう少し様子を見たい。

東陵中学校校舎の跡利用計画は

三島

先般の役場庁舎の耐震診断結果では、危険施設と診断され早急に対応しなければならぬ。

東陵中学校校舎を役場庁舎として利用してはとの提言や体育館棟は、体育団体への開放や合宿での室内練習場での利用との声もある。

東陵中学校校舎の跡利用計画について、町長の見解を伺う。

町長

まずは公共施設としての活用を視野に、施設の運営方法、課題の整理を進めていく。

これらの課題の整理を行った上で、その他の活用も視野に入れながら早期に方針を示したい。

役場庁舎の耐震化は、国の補助制度を活用しながら補強工事により進めたいと考えている。

体育館棟の活用についても、先の子ども議会でも要望があったので、実現可能かどうか協議する。

道徳教育の充実

三島

道徳教育については、学習指導要領で規定されており、最近特にいじめによる自殺が起きており、いのちの大切さや人を思いやる気持ちをどう身につけるか、本町として道徳教育をどのように取り組んでいるのか、また「こころの教育」について、どう考えているのか見解を伺う。

教育長

学校教育においては、知・徳・体をバランスよく育成することが大切なのは言うまでもないが、心の教育は全ての教育活動の基礎となるものである。

教育委員会としては、子供たちがこの自然豊かな恵まれた教育環境のもとで、健やかに心豊かな人として成長してほしいという思いを込めて取り組んでいる。

今後も学校・家庭・地域の連携を大切に、子どもたちの豊かな心を育む教育を進めていく。

3 件の一般質問

冬期間の通学歩道の確保を



委託契約締結と考えている。

② 新年度の実施設計を終え、早ければ平成26年4月に着工、平成27年7月竣工、同年夏休み明けから新施設へ移動したいと考えている。

③ 建物面積は、延べ床面積1470平方メートル概算経費として本体工事費が約9億1400万円、調理機器設備費が約3億5700万円程度の試算をしているが、基本計画がまとまり次第、町部局や所管委員会に報告する予定で取り組んでいる。



鈴木 芳幸 議員 … 2 件の一般質問

国道 393 号線メーブル街道の安全対策 防雪柵の設置予定は

町長：国で 600m の工事を予定



国道 393 号線 防雪柵設置予定箇所

鈴木

国の平成 24 年度大型補正予算で国道 393 メーブル街道の安全対策が予算付けされた。

地震対策、老朽化対策、風水害対策、防雪対策等の事業が盛り込まれ、北部連合会が要望していた防雪柵の取り付けも盛り込まれていると聞いている。

①防雪柵は取り付けられるのか。

②取り付けられるのであれば、地域説明会が開かれるのか。

町長

新政権による日本経済再生に向けた緊急対策に基づく予算編成がなされた。

本町として、従前から北部連合会の要望を受け、北海道開発局、小樽開発建設部に早期設置を要望し、本年着工と聞いている。

①「一般国道 393 号俱知安町瑞穂防雪柵設置外一連工事」概要は、瑞穂工区 600 メートルの防雪柵設置工事である。

②工事着手時には、地域説明会を開催する。

施肥体系 転換推進事業

鈴木

平成 24 年度は、180 万円の執行残となっているが、残った理由の説明を求める。

町長

J A ようていの運営するたい肥センターで製造されているたい肥について、導入する農業者に対して平成 17 年度から土づくり推進事業として助成してきた。

平成 21 年度からは、施肥体系転換推進事業として

助成している。

て助成している。

現在の助成体系となった平成 21 年度は、53 名で 295.2 トン、直近の平成 24 年度では、38 名で 178.1 トンと活用が進まない状況にある。

理由としては、化学肥料と比較して即効性に劣ること、秋の収穫作業の遅れ、生産資材費の縮減などがあげられる。

土づくりは農業の基本であり、豊かな土壌は農業を持続的に発展させる必要不可欠な資源である。

たい肥を導入して生産性の向上を図ることが求められているのは認識しているが、今年度も農協と協議し、利用しやすい体系や助成額の増額などを検討する。

鈴木

現在のシステム

チュウ対策だけでは我が町のブランド品男爵イモを守ることができない。

見解を伺う。



春先のたい肥作業

副町長

従来より抵抗性品種、「きたあかり」や「とうや」の導入について、また D・D 薬剤灌注の支援についても農協と一緒に継続して実施している。

システムは、馬鈴薯の生産性向上には欠かすことのできない重要な政策であることは認識しているので、引き続き農業者が導入しやすい抵抗性品種、あるいは D・D 薬剤さらには、男爵イモの生産性向上に向けて農協と協議・検討していく。

補強修繕工事が行われる寒別橋